



North Pacific Bank
CSR
REPORT 2018

北洋銀行のCSR 2018 環境・社会・経営レポート



UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。

株式会社 北洋銀行 経営企画部

〒060-8661 札幌市中央区大通西3丁目7番地
 電話 011-261-1311(代表)

くわしくは [北洋銀行 CSR](#) [検索](#)

<https://www.hokuyobank.co.jp/about/csr/>



北海道の持続的な発展に
貢献するために

皆さまには、日頃より北洋銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行は、おかげさまをもちまして、昨年8月に創立100周年を迎えましたが、これを単なる通過点とするのではなく、新たな創業の年と位置づけ、今後の100年を見据えた経営を行っていきたくと考えております。

CSR(企業の社会的責任)への取り組みにおいては、「全てのステークホルダーの持続的な発展に資する行動を全行で実践」することを基本方針としており、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」をCSRの重点取組テーマとしております。2017年度は、「ほっく一障がい者スポーツ基金」を設立し、道内の障がい者スポーツに取り組む選手や団体等への支援を行いました。この基金は、お客さまに私募債「パラスポーツ応援債」を発行いただく際、当行が基金に寄付金を拠出するものであり、おかげさまでこの趣旨に賛同してくださった多くのお客さまにご利用いただいております。また、希少動植物保護に取り組む人々や団体を支援する「ほっく一基金」についても助成先を公募制にする等により、幅広くご活用いただける「ほっく一基金北海道生物多様性保全助成制度」としてリニューアルしました。

本CSRレポートでは、このような重点取組テーマ「環境保全」「医療福祉」「教育文化」への取り組みや、銀行の本業を通しての取り組み、道内各地域での取り組みといった、当行の様々な取り組みをご紹介しますので、皆さまのご参考にできれば幸いです。

今後も、「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」という経営理念のもと、地域・お客さまとともにさらなる成長および新たな価値の創造を目指してまいりますので、一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株式会社 北洋銀行

取締役頭取 安田 光春



Contents

トップメッセージ	P1
私たちが考えるCSRとは	P3
特集1 北洋銀行創立100周年記念事業	P5
特集2 いつもお客さまの側にあるCSR	P7
特集3 地域とまちと共に	P10
環境保全への取り組み	P17
医療福祉への取り組み	P23
教育文化への取り組み	P26
経営について	P29
コーポレートガバナンス体制/危機管理体制と業務継続計画に関して/リスク管理	P31
コンプライアンスとお客さま保護等の態勢	P32
積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築	P33
CSR REPORT 2018 に対する第三者意見	P34

編集方針

札幌北洋グループが推進しているCSR活動について、CSRに対する考え方や推進体制・取り組み状況等を、環境・社会・経営の切り口で重点的に取り組んでいるテーマを中心にご紹介し、ステークホルダーの皆さまに当グループに対するご理解を更に深めていただくことを目的としています。

報告対象の範囲と期間

特に記載のない限り、株式会社北洋銀行、株式会社札幌北洋リース、株式会社札幌北洋カード、ノースパシフィック株式会社、北洋ビジネスサービス株式会社の5社を対象としています。また、対象期間は、特に記載のない限り、2018年3月までの取り組み内容を記載しています。



私たちが考える CSRとは

Corporate Social Responsibility
(企業の社会的責任)

企業が社会や地球環境に対して責任を果たし、社会、地域等と共に発展していく取り組みのこと。

札幌北洋グループにとっての企業の社会的責任

私たち札幌北洋グループの将来と地域の未来に寄与するため、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」を重点取組テーマとしてご期待に応えるまちづくりをサポートしていきます。

CSR基本方針

札幌北洋グループの「経営理念」に基づき、当グループを支えていただいている全てのステークホルダーの持続的発展に資する行動を全行で実践し、金融商品・サービス・情報等の提供、支援活動に努めます。

札幌北洋グループ経営理念

お取引先に良質なサービスを提供し、お客さまと共に発展する。企業価値の増大を図り、株主と市場から高い信頼を得る。職員がその能力を十分に発揮できる働きがいのある職場をつくる。

北洋銀行経営理念

北海道の洋々たる発展の礎となる銀行

札幌北洋グループのステークホルダー

ステークホルダーとは、企業の利害関係者のことです。ただし、金銭的な利害関係のある取引先(お客さま)や株主さまだけを指すのではなく、地域社会、環境、職員等、企業活動を行う上で関わる全ての主体を含みます。



3つの大切なこと

CSRにおける重点取組テーマ

地域金融機関に求められる役割・機能等を踏まえ、「社会的課題としての重要度」、「地域の持続的発展における重要度」、「当グループの持続的発展における重要度」の3点から検討し、「環境保全」「医療福祉」「教育文化」の3テーマとしています。

環境保全



▶▶▶ P.17~

医療福祉



▶▶▶ P.23~

教育文化

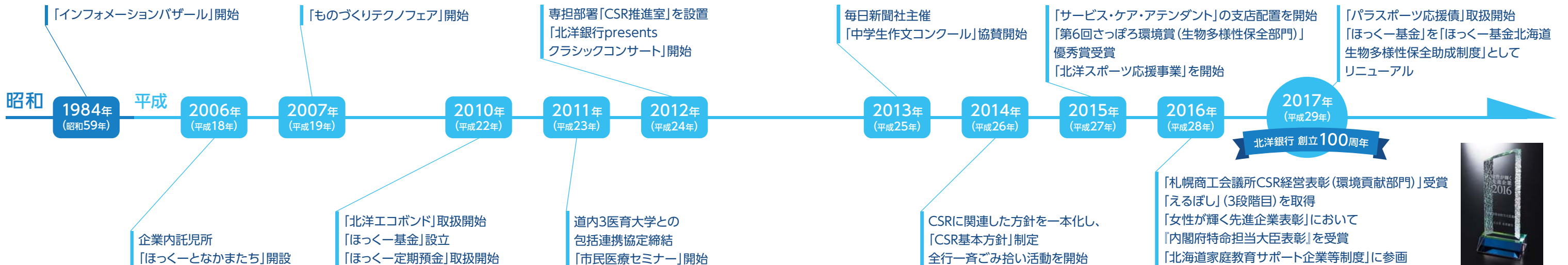


▶▶▶ P.26~

CSR推進体制

当行は「CSR委員会」を設置し、銀行全体でのCSR推進方針・推進策等の協議ならびに進捗管理等を行っています。同委員会で協議された事項は、必要に応じて取締役会においても協議し、決定した推進方針・推進策等を全行に展開しています。

CSRの歩み



01

北洋銀行は、2017年8月20日に創立100周年を迎えました。当行を支えてくださった皆さまへの感謝の気持ちを込めて、様々な記念事業を実施しました。



創立100周年記念 北洋銀行presents クラシックコンサート

札幌交響楽団によるクラシックコンサートを道内6都市(旭川・苫小牧・北見・帯広・札幌・釧路)で開催し、お客さまを無料ご招待しました。



旭川公演(2017年4月)



札幌公演(2017年12月)

北海道日本ハムファイターズ 北洋銀行創立100周年記念 サクスマッチ

北海道日本ハムファイターズのホームゲームにイベント協賛しました。障がいをお持ちの方々をご招待したほか、少年野球チームの子どもたちによるベースランニングを開催しました。



札幌ドームでのベースランニング

小学生向けイベント『ほっくー教室』

小学生を対象としたイベント「ほっくー教室」を札幌および函館で開催しました。お金について楽しく学んでもらう「ほっくーマネー教室」と、ミサワホーム株式会社の元南極観測隊員による「南極セミナー」の2部構成で実施しました。



「夏休みだよ!ほっくー教室」(札幌)

劇団四季 ミュージカル 『ライオンキング』貸切公演

劇団四季のディズニーミュージカル『ライオンキング』の貸切公演を開催し、830名のお客さまをご招待しました。

植樹「北洋銀行ほっくーの森 in 夕張」

北海道の施策である「ほっかいどう企業の森林づくり」を活用し、夕張市で当行役職員とその家族が参加し漢方薬の原料となる薬木「キハダ」750本を植樹しました。本事業は、夕張市が地方版総合戦略で掲げている地域産業資源創出事業にも資する取り組みです。



薬木「キハダ」の植樹



北洋銀行ほっくーの森 in 夕張

創立100周年記念配当の実施

株主の皆さまの日頃のご支援に感謝の意を表すため、2018年3月期の中間配当において、1株につき1円の記念配当を実施しました。

『北洋銀行百年史』 『北洋銀行100周年記念誌』発刊

当行の歩みを振り返る『北洋銀行百年史』と、写真を多く採り入れて年代ごとに内容をまとめた『北洋銀行100周年記念誌 北海道の明日とともに』を発刊しました。



北洋銀行100周年記念誌

ほっくー基金自然環境フォーラム

北海道の希少動植物保護に取り組む人々や団体を応援する「ほっくー基金」助成先団体からの活動報告と、猛禽類医学研究所の齊藤慶輔獣医師による基調講演を行い、北海道の自然の素晴らしさとそこに息づく命の大切さを実感できる記念フォーラムとなりました。



齊藤獣医師による基調講演を実施



助成先団体の活動報告

北洋銀行百年史パネル展

当行の100年の歴史を振り返るパネル展を、北洋大通センター1階にて開催しました。(2017年4月～2018年3月)



百年史パネル展

いつもお客さまの側にあるCSR

02

「お客さま第一主義」のもと、職員それぞれが想いを込めて様々なサービスを提供できるように取り組んでいます。



お客さまから感動していただける対応の実践

お客さまが満足され、感動していただける対応の実践に向けて、全営業店で「CS委員会」を開催し、「お客さま第一主義」の徹底とサービス品質の向上を図っています。また、外部調査機関による覆面調査等を継続的に実施し、金融サービス業に必要な接客スキル向上に努めています。

振り込め詐欺防止の声かけ

振り込め詐欺等の金融犯罪の手口が多様化しているなか、被害の未然防止と、被害にあわれた方の救済に取り組むため、金融犯罪対応を行う専門部署を設置しています。各営業店でも高齢のお客さまの高額な振込や現金払戻しに対しては「声かけ」を行い、詐欺の可能性について確認を行っています。

ご高齢のお客さま・障がいのあるお客さまへの対応

ご高齢のお客さまや障がいのあるお客さまが利用しやすい銀行を目指して、サービス体制の充実のための様々な取り組みを行い、安心・便利な店舗づくりに取り組んでいます。「視覚障がい」「聴覚障がい」「車いす利用者」「認知症」への理解を深め、介助技術だけでなくコミュニケーションに重点を置いた資格「サービス・ケア・アテンダント」認定者や「認知症サポーター」を営業店に配置しています。

お客さまに優しい店舗づくり

- 「杖かけホルダー」の設置
- 「ATMタッチペン」の設置
- 「文字拡大機能付ATM」の設置
- 車いす配備店舗の拡大
- 声が大きく聞こえる機能がある「助聴器」の全営業店配備
- 店舗建て替え時のバリアフリー設計 など



サービス・ケア・アテンダント研修

視覚障がいのお客さま

- 窓口受付振込手数料をATM利用振込手数料と同額へ引き下げ
- 音声案内対応ATMを全営業店に1台以上設置
- 点字通知サービスによる預金残高・取引明細の通知



ATMユニバーサルデザイン画面



助聴器

耳の不自由なお客さま

- 「耳マーク」、「コミュニケーションボード」、「筆談ボード」を全営業店に設置



音声案内対応ATM



入出金・口座開設・名義変更等希望する手続きを指し示す「コミュニケーションボード」

金融犯罪防止セキュリティ対策

金融犯罪からお客さまをお守りし、インターネットバンキングを安心してご利用いただくため、セキュリティツールの無償提供、取引結果のEメール通知のほか、パスワード生成ソフト、生成機や電子証明書方式の導入等の様々なセキュリティ対策を実施しています。また、不正利用の発生状況を踏まえた対処方法についてEメール・ホームページ等で、適切にお客さまへお知らせし、金融犯罪の発生防止に取り組んでいます。

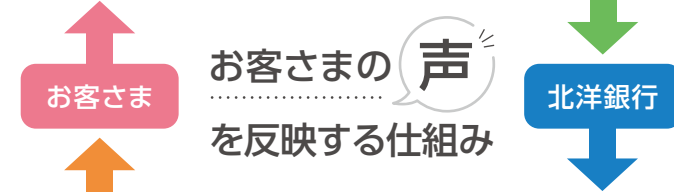


ソフトトークン画面 (スマートフォン向け)

お客さまの声の収集と反映

お客さまのご意見、ご要望を商品・サービスに活用するため、店頭窓口で承ったご意見・ご要望やホームページの「お客さまの声ポスト」、店頭に設置している「お客さまご意見カード」等で寄せられたお客さまの声を一元管理し、大切な情報として行内で共有しています。当行は、お客さま第一主義のもと、お客さまの声を真摯に受け止め、お客さまのお役に立つ商品やサービスの改善に取り組んでいます。

- お客さまの声をお伺いする方法
- ホームページの「お客さまの声ポスト」コーナー (常設)
 - 店頭設置の「お客さまご意見カード」 (常設)
 - 各種フリーダイヤル等



お客さまの声を反映する体制

- お客さまの声を一元管理すると共に、役員を含め情報を共有

商品・サービスの改善等に反映

投資信託の運用報告書について、送付書の日付が「作成日」なのか「決算日」なのかが分かりにくい

お客さまの誤解を招かぬように、送付書の日付を「作成日〇年〇月〇日」から、「決算日〇年〇月〇日」へ変更しました。

お客さまの声を
実現しました！

化粧室からロビーに戻る際、段差が見えず転びそうになった。斜めの台を設置してほしい。(清田区役所前支店)

スロープ、手すりについて対応検討の結果、スロープを設置しました。

担当からの一言



調査役 中知子

より高いレベルのお客さま対応の実践に向けて全行で取り組みしています。

「お客さま第一主義」を徹底し

- ◆ 「お客さまに感動していただける」対応の実践
 - ◆ 「お客さま目線」で分かりやすい説明
 - ◆ 「お客さまの立場」にたって最適なサービスを提供することをCS行動方針としています。
- お客さまが利用しやすいと感じ、感動していただく対応を実践するために接客スキル向上に努めています。

身近で便利なサービス

スマホアプリ「ほっくーNAVI」がますます便利に

当行の商品・サービスや地元の情報、暮らしや趣味など、お客さまの生活に密着したコンテンツを配信する「ほっくーNAVI」。フィンテックサービスとの連携により、アプリで口座残高を確認できるようになりました。



ほっくーNAVI

お買い物にも便利なカード

Apple Payに対応したクレジットカード「clover」や、ご利用代金が口座から直ぐに引落しされる「北洋-JCBデビット」があれば、お買い物にとっても便利です。

オンライン24時間365日稼働サービスを提供しています

24時間365日ご利用いただけます

提携コンビニおよびゆうちょ銀行のATMでの
当行カードによる「お引き出し」・「お預け入れ」

個人インターネットバンキング「北洋ダイレクト」
での当行宛での振込・振替

「北洋-JCBデビット」のWEB(スマホ・パソコン)申込

「北洋-JCBデビット」でのお買い物

フィンテックへの取り組み

フィンテック (FinTech) とは?

金融 (Finance) と技術 (Technology) を組み合わせた造語で、人工知能やビッグデータの活用、モバイル決済等、IT技術を駆使した金融サービスです。当行は、フィンテックの取り組みを通じ、より利便性の高い商品・サービスの提供に努めています。

TSUBASAアライアンスによる連携

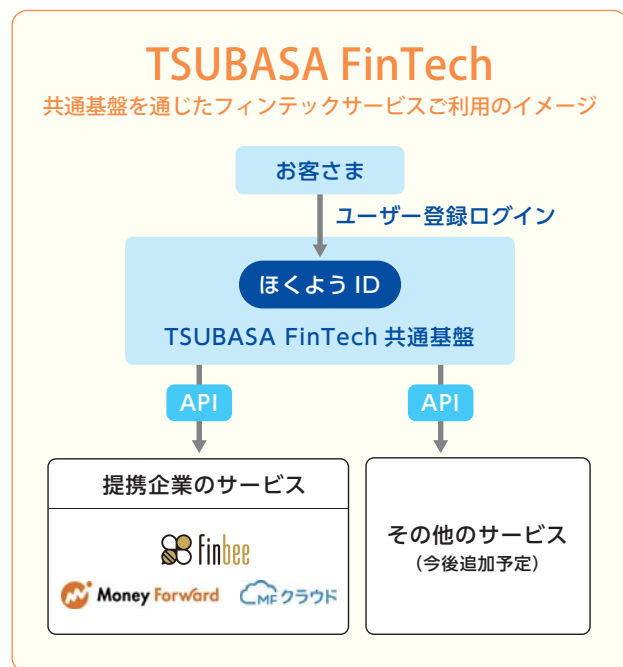
TSUBASAアライアンス

地銀広域連携の枠組みである「TSUBASAアライアンス」*を中心に、協調融資や顧客相互紹介による連携のほか、AIや生体認証技術の研究など、フィンテック分野の連携を強化しています。

*千葉銀行・第四銀行・中国銀行・伊予銀行・東邦銀行・北越銀行・当行の7行が加盟

フィンテックへの取り組み

2018年4月より「TSUBASA FinTech共通基盤」によるAPIの提供およびフィンテックサービスとの連携を開始しました。お客さまにご利用いただけるフィンテックサービスとして、株式会社ネストエッグの自動貯金アプリ「finbee (フィンビー)」、株式会社マネーフォワードの資産管理サービス「マネーフォワード」・ビジネス向けクラウドサービス「MFクラウドシリーズ」の提供を開始しました。さらに、株式会社マネーフォワードが当行のお客さま向けに見やすく、利便性を高めた「マネーフォワード for 北洋銀行」、「MFクラウド確定申告 for 北洋銀行」を開始しました。また、当行のアプリ「ほっくーNAVI」にも、口座残高確認機能を追加しており、今後もお客さまの利便性向上に努めます。



担当からの一言



調査役 清水 友磨

当行が開始した「TSUBASA FinTech共通基盤」というAPIは、幅広いお客さまにご利用いただけるように、書面の契約によることなく、インターネットを介してスマートフォン等で安全に利用を開始することができます。ほくようID*で外部のサービスに口座情報などの銀行機能を提供することで、お客さまにとって付加価値と利便性の高い金融サービスをご提供いたします。また、道内事業者さまのITによる事業の効率化についての支援も行っています。

*インターネットで提供されるサービスを、共通のIDでご利用いただくための仕組み

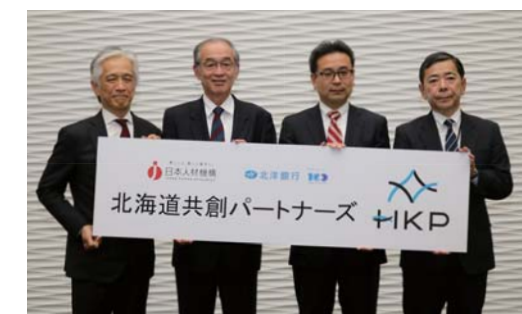
地域社会の豊かな発展に、そしてお取引先と地域経済のこれからも続く発展に貢献できるよう、当行の金融機能とネットワークを活用して、積極的に取り組んでいます。



地域密着型金融を通じた地域経済の持続的な発展を目指して

株式会社日本人材機構と共同事業を開始～道内企業を“伴走”支援～

お客さまの課題解決のための人材・ノウハウ不足を補うため、2017年11月に株式会社日本人材機構の子会社である株式会社北海道共創パートナーズに資本参加し、人材紹介などの伴走型支援サービスの提供を開始しました。この取り組みにより、道内企業の持続的・自律的な発展を支援することで、地域・お客さまとともに成長するための「共通価値の創造」の実現を目指します。



北洋大通センターでの記者会見

ファンドで地域を応援

有望な技術をもつベンチャー企業や海外進出志向のある企業及び農林漁業分野の企業が成功するためには、融資での資金援助だけでなく、ファンド等を通じた資本力増強と信用補完が効果的です。当行は、通常の融資に加え、企業のニーズに応じた各種ファンドを用意し、企業の事業展開をサポートしています。

2017年度活用状況

	支援先数
北洋イノベーションファンド	5件
北洋6次産業化応援ファンド(支援決定先を含む)	1件
北洋農業応援ファンド(支援決定先を含む)	2件
北海道成長企業応援ファンド	2件
北洋ライフサイエンスサポートファンド	2件
北洋銀行ドリーム基金	10件

Pick up!

北洋銀行ドリーム基金

北海道の中小企業が取り組む新技術と新製品の研究開発に助成事業を行う「北洋銀行ドリーム基金」の助成実績は、1989年の設立以来、151件1億5,100万円となりました。

「北洋SDGs推進ファンド」設立

当行と株式会社北海道二十一世紀総合研究所は、SDGs*に取組む道内企業の支援を通じて、「北海道の持続可能な発展」への貢献を目的に、「北洋SDGs推進ファンド」を2018年6月に設立しました。北海道の重要課題かつ持続可能な発展に向けて不可欠な「起業・創業」をSDGsの第一義的テーマとして産学官で連携し、出資の形態で支援していきます。

*2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。社会・経済・環境の課題を解決した2030年の世界像を目標として掲げたもので、17分野の目標課題がある。



ロケット開発ベンチャー企業が開発した小型ロケット(北洋イノベーションファンド 第35号出資先)

道産食材・食品の国内販路拡大を支援

2017年度

153社・団体
のご出展と、
約4,000名
がご来場

インフォメーションバザール

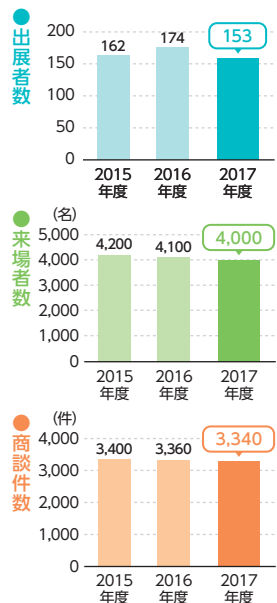
北洋銀行インフォメーションバザールは、“北海道の食品メーカー・生産者と食品バイヤーの出会いの場”として首都圏と関西圏で開催しています。2017年に東京都にて開催した「インフォメーションバザール in Tokyo 2017」では、新たに全国の郵便局で取り扱うふるさと小包カタログならびに越境ECサイトへの商品掲載に向けた「ふるさと小包個別商談会」、「海外向けWebサービス個別商談会」などを行いました。



インフォメーションバザール in Tokyo 2017

開催状況

(インフォメーションバザール in Tokyo)



食のプロダクトデザイン

北海道の基幹産業である食関連事業者（主に食品メーカー）への本業支援施策の一環として、「パッケージ」・「販路拡大」などの強化に向けたサポートを行っています。

ホテルレストランを活用した地域フェア

ホテル御三家の一つであるホテルオークラのホテル内の和洋中の3つのレストランで、地域の食材を活用したメニューを各シェフが考案し、お客様にご提供する1ヶ月間の地域フェアを開催しました。これまでに北見市、オホーツクの地域フェアを開催し、これに連動して大通観光プロモーション・試食会等のイベントも実施しました。



ホテルオークラ地域フェア (北見市)

地域フェアに連動して実施した観光プロモーション (北見市)

FOOD EXPO 北海道

2017年7月に、当行、北海道銀行、北海道商工会議所連合会の共催による食の商談会「FOOD EXPO 北海道」を開催しました。三者の道内全域にわたる幅広いネットワークを活かし、優れた商品や隠れた逸品を道内外に発信することで、オール北海道で道産食品の販路開拓・拡大を図るものです。道内の食品製造・加工メーカー、生産者など136社・団体が出展、バイヤーや大手スーパー関係者など約1,000名が来場し、活発な商談が行われました。



FOOD EXPO 北海道

「観光分野」支援への取り組み

大通観光プロモーション

2011年度から北海道と連携し、道内各地の自治体等が地元をPRする場として、北洋大通センターの1階スペースを無償で提供しています。魅力的な観光資源やイベントをPRする場を提供することにより、観光客誘致や地域振興に積極的に取り組む自治体等を支援しています。

2017年度

21団体が
大通観光
プロモーション
を実施しました



大通観光プロモーション (美深町)

観光ビジネスマッチング

食の大商談会「インフォメーションバザール」の開催にあわせ、出展団体（道内の地方公共団体・振興局など）とバイヤー（首都圏旅行代理店・雑誌社など）との観光ビジネスマッチングを実施し、首都圏からの北海道向け旅行商品造成や雑誌記事掲載をサポートしています。

2017年9月開催

出展者19団体・
バイヤー24名により187件の
商談が行われました



観光ビジネスマッチング

観光相談会

株式会社JTB等と連携して観光相談会を開催し、各地域の新たな観光資源の発掘やインバウンド強化に向けた観光資源のブラッシュアップを図っています。2017年度は余市町、富良野市、登別市・室蘭市で実施し、観光事業者31社が面談を実施しました。



観光相談会

道内の優れた技術や製品の販路拡大を支援
道内ものづくり産業展示型商談会 ものづくりテクノフェア

北洋銀行ものづくりテクノフェアは、道内ものづくり産業の振興を目指し、展示型商談会として開催しています。優れた技術や製品の販路拡大を支援すると共に、出展者と来場者との専用ブースによる商談機会を提供してきました。2017年7月開催の「ものづくりテクノフェア2017」では先端技術を体感できる「AI」や「IoT」を紹介する専用ゾーンを設けたほか、ものづくり人材の育成を目的に、道内の工業系学校5校の学生300名をご招待しました。

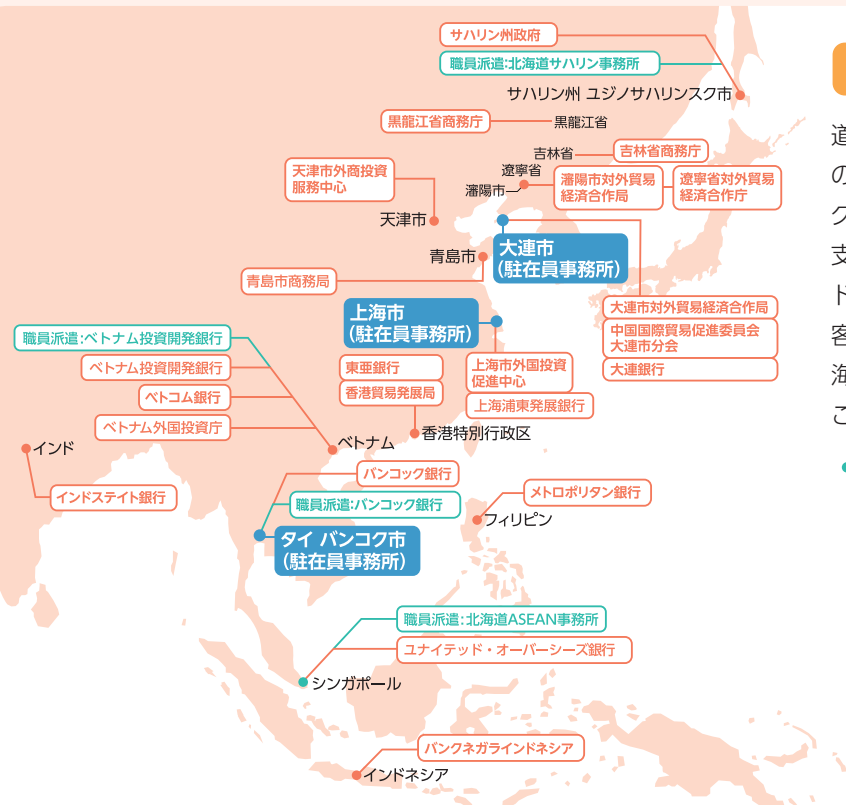
2017年度

220社・団体の
ご出展と、
約4,800名が
ご来場



ものづくりテクノフェア2017

道内の工業系学校の学生をご招待



海外での事業展開支援

道内取引企業の国際化を支援し、北海道経済の振興・活性化を図るためのコンサルティングを、積極的に行っています。また、海外進出支援や道産品の輸出といったアウトバウンドのサポート、海外からの投資や外国人観光客受入等インバウンドのサポートに注力し、海外取引における為替リスク軽減の手法もご提案しています。

- 米国
 - セントラル・パシフィック銀行(ハワイ)
 - 職員派遣: 千葉銀行ニューヨーク支店
- 当行の海外ネットワーク
(2018年6月末現在)
- 海外駐在員事務所: 3カ所
 - 海外への職員派遣: 6名
 - 海外提携先: 23先
 - ・政府機関等: 12先
 - ・金融機関: 11行

道内企業の海外進出支援のため各種セミナーや商談会等を実施

- インターネットを活用した海外販路拡大セミナー
- バangkokビジネス交流会
- 海外取引拡大セミナー in 帯広
- 2017大連-地方銀行合同ビジネス商談会
- 香港ビジネスセミナー
- 海外ビジネスにおける知的財産セミナー
- エグゼクティブシニアを活用した海外事業の最適化セミナー

Pick up!

2017大連-地方銀行合同ビジネス商談会

2017年9月、中国大連市にて、中国ビジネスに関心をお持ちで中国国内にパートナーをお求めの企業や、自社商品を中国国内市場で販売したい企業のビジネスチャンス創出や交流促進を図ることを目的に、大連人民政府および全国の地方銀行と合同で開催しました。当日は道内企業7社を含む、日本側企業130社と、中国側221社が参加され、活発な商談が行われました。



香港ビジネスセミナー

「道の駅」等を活用した地域連携物流システムの構築

地元の物流会社である北海道物流開発株式会社と連携し、「道の駅」等を活用した地域連携物流システムの構築に取り組んでいます。これにより、地元企業や行政機関なども協力・連携し、物流の効率化とコスト圧縮を目指しています。



道の駅「もち米の里☆なよろ」

中小企業支援事業の担い手として「経営革新等支援機関」に認定されています

当行は財務局長及び経済産業局長より「経営革新等支援機関」に認定されています。今後も多様化・複雑化する中小企業様の様々な経営課題解決(創業、事業承継・M&A、販路開拓・マーケティング、海外展開等)に取り組み、中小企業の経営強化を支援します。

事業承継支援

道内企業の円滑な事業承継を支援するために、営業店に専門資格保有者*を配置しているほか、お客さまのステージに合わせて本部の専任者が外部専門家と連携しながら最適なソリューションを提案しています。

*事業承継・M&Aエキスパート資格

事業承継支援内容	2017年度 事業承継承渉件数 約1,200件
後継者決定企業	事業承継計画を提案
後継者決定企業のうち、何らかの課題を抱えている先	外部専門家と連携し、様々な課題解決を支援
後継者不在企業	M&Aによる承継支援

既存住宅の活性化による移住・定住促進

「空き家対策」という社会問題に対応するため、当行では札幌市をはじめとする道内自治体やNPO法人と連携協定を締結すると共に、「空き家対策相談窓口」を本店ローンプラザ内に設置しています。お客さまから「空き家活用・売却・解体」「移住・定住・住み替え」等に必要なお借入のご相談をお受けできる専門員を配置し、道内自治体の推進する地方創生事業を積極的にサポートしています。

Pick up!

「リビングローン(空き家解体優遇)」をご提供

空き家の解体費用等としてお借入いただく場合、一般のリビングローンより低い金利が適用され、自治体の補助金を受給される場合は、さらに金利を優遇いたします。(2015年7月取扱開始)



民間企業による公共施設サービス支援 PFI事業

公共施設の整備を民間企業が行うPFIに積極的に取り組み、計画の段階からサポートしています。旭川市立高台小学校の整備事業では、エコボイド(3層吹抜空間)等により自然エネルギーを最大限活用する校舎が完成しました。また、稚内市生ごみ中間処理施設の整備事業では、生ごみのメタン発酵で発生したバイオガスを回収し、施設の内外で有効活用する「稚内市バイオエネルギーセンター」が建設されています。



旭川市立高台小学校



稚内市バイオエネルギーセンター

それぞれの地域で社会貢献！

北海道の地域金融機関として、道内の学生を対象とした様々な金融教育を実施しています。また、地域社会の一員として、社会貢献に繋がる行事への参加や地域交流など、全店を挙げて役職員がCSR活動への取り組みを行っています。

金融教育

実施回数 …… 57回 学生参加人数 …… 818名

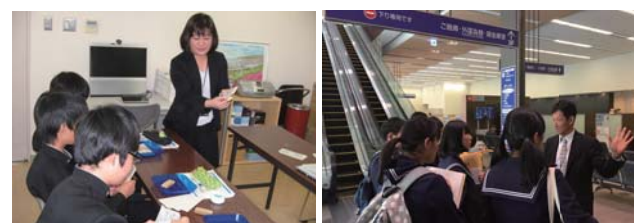
北海道の未来を担う子どもたちのための出張授業や講師派遣、本支店見学などの各種金融教育を実施しています。また、小学生を対象とした職業体験イベントや、各地域で行われる様々なイベントに当行ブースを出展し、お金の大切さや仕組み、金融機関の役割などを学んでもらいました。

● 職業体験イベント等に当行ブース出展



夏休み！こども体験アカデミー 野幌中央支店 (F・kid's 2017 in EBETSU)

● 本支店での職場見学



七重浜支店 本店営業部見学

地域イベント・お祭りへの参加

役職員参加人数 …… 635名

地域貢献の一環として、役職員が地域のお祭りなどの行事に参加しているほか、各種イベントの運営にも積極的に協力しています。

● 地元のお祭りに参加



釧路ブロック各店 (くしろ港まつり)



伊達支店 (伊達武者まつり)

● 地域行事に参加



帯広中央支店 (十勝川イカダ下り)



五稜郭公園支店 (箱館五稜郭祭)



小樽ブロック各店 (おたる潮まつり)



中島町支店 (むろらん港鉄人舟漕ぎ大会)

地域の緑化・清掃活動

役職員参加人数 …… 1,718名

きれいな街づくりを目指し、地元の振興会や町内会が開催する緑化・清掃活動に多くの当行職員が参加しているほか、当行店周および近隣地域を対象とした「全行一斉ごみ拾い活動」を実施しており、「環境保全」への意識を高めるきっかけとなっています。

● 緑化活動



遠軽支店 (ツツジ花殻摘み)

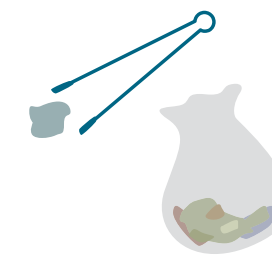


夕張支店・本部「北洋銀行ほっくーの森 in 夕張」(植樹)

● 全行一斉ごみ拾い活動



北見中央支店



北五条通支店

地域交流

ロビー展の開催

当行の店頭ロビーが地域の情報発信・文化交流の場となるよう、地域の子どもたちやお客さまが制作した作品を展示するロビー展を実施しているほか、環境や医療をテーマとした地域のお客さまに役立つ情報をご提供するパネル展などを開催しています。

● 「環境保全」をテーマとしたパネル展



釧路中央支店 (出展：猛禽類医学研究所)

● 地域の方々の作品を展示



美深支店 (美深高校写真部による写真展)



西の里支店 (絵てがみ展)

西の里支店 (地元保育園児のぬり絵展)

環境保全
への取り組み



自然豊かな未来へ、
いまできることを。

「環境保全」は、当行の営業基盤である北海道はもちろん、世界全体の発展にはなくてはならないもの。私たちはこの取り組みを、「当行自身の環境負荷低減への取り組み」と「ビジネスを通じた取り組み」の分野で推進しています。

ほっく基金とほっく定期預金

ほっく基金

北海道の生物多様性保全に取り組む人々や団体を応援する「ほっく一基金」(2010年設立)は、2017年11月に助成先を公募制とする「ほっく一基金北海道生物多様性保全助成制度」としてリニューアルしました。これにより、道内の希少種保護や生息環境の整備等に取り組む様々な団体に対する活動資金の助成を行い、これまで以上に北海道の生物多様性保全に寄与することを目的としています。基金の助成、支援方法については、官民連携である「ほっく一基金選定協議会」(北海道・北海道環境財団・日本動物園水族館協会・当行)を設置し、妥当性・公平性・透明性の確保に努めています。



NPO法人函館エコロジークラブ



えりも町郷土資料館N42'の会



野幌森林公園を守る会



NPO法人いしかり海辺ファンクラブ



NPO法人タンチョウ保護研究グループ



ホテルの住む故郷を造る会



一般社団法人北海道猟友会帯広支部



2018年度贈呈先

ほっく一コース
(助成上限金額100万円)

- NPO法人いしかり海辺ファンクラブ
- えりも町郷土資料館N42'の会
- NPO法人タンチョウ保護研究グループ
- 野幌森林公園を守る会
- NPO法人函館エコロジークラブ
- 一般社団法人北海道猟友会帯広支部
- ホテルの住む故郷を造る会

トムコース
(助成上限金額10万円)

- 江別ホテルの会
- 大沼ラムサール協議会
- NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト
- 一般社団法人黒松内町観光協会
- 札幌南ふゆみずたんぼの会
- 札幌まるやま自然学校
- 標津町野の植物の会
- Friends of Shari River 斜里川を考える会
- たきかわ環境フォーラム
- タンチョウ コミュニティ
- フォーラム野幌の森
- 北海道函館水産高等学校
- 北海道爬虫両棲類研究会
- 蘭越自然探検隊

設立以来、延べ63先5,300万円を助成しました。

ほっく基金口座の設置

募金専用口座

北海道の生物多様性保全に、当行の役職員はもとよりお客さまに広くご参加いただき、道民一丸となって取り組めるよう「ほっく一基金」の専用寄付口座を設けています。各営業店の窓口にてお振込手数料無料で受け付け、個人から法人のお客さままで広く皆さまのご協力を募っています。

ほっく定期預金

「ほっく一基金」の主な原資として「ほっく一定期預金」を全店でお取り扱いしています。お客さまにお預け入れいただいた「ほっく一定期預金」の、当行が別途定める基準日の残高の0.01%相当額と、満期案内不発行による郵送料相当額を、当行が「ほっく一基金」に拠出します。これにより、お客さまは間接的に「ほっく一基金」へ参加し、北海道の生物多様性保全に貢献いただくことができます。

通帳は当預金専用で、「環境配慮型通帳」を採用しています。また、通帳の素材に、地球環境に配慮した紙クロスと植物由来成分のインキを使ってリサイクル適性を向上させたほか、塩化ビニールを用いない磁気テープの採用で廃棄適性も向上させています。



ほっく一定期預金通帳

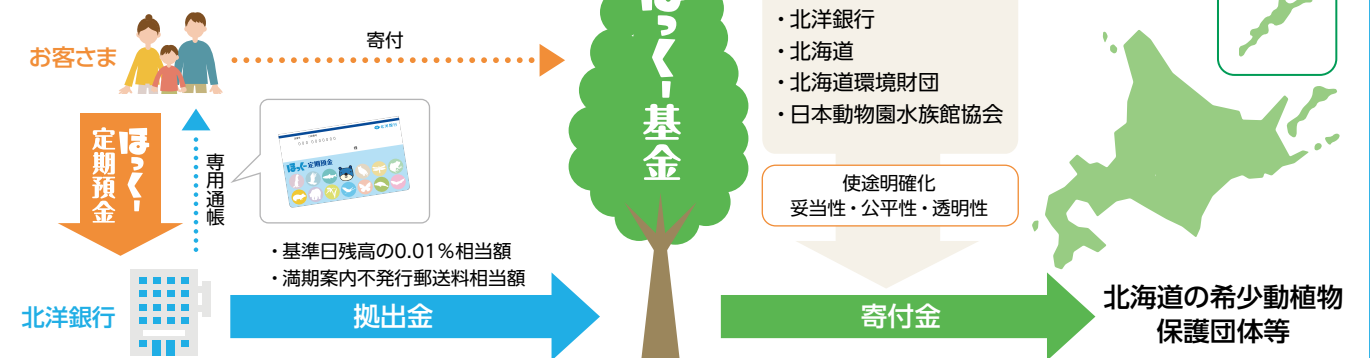
担当からの一言



調査役 小野 光史

「ほっく一定期預金」にお預け入れいただくと、「ほっく一基金」を通じ、北海道が世界に誇る豊かな自然と動植物の保護に貢献いただくことができ、多くのお客さまにご利用いただいております。環境保全に向けた取り組みとして、より多くのお客さまにご利用いただけるよう、取り組みしてまいります。

ほっく基金のしくみ





ほくー基金
応援1

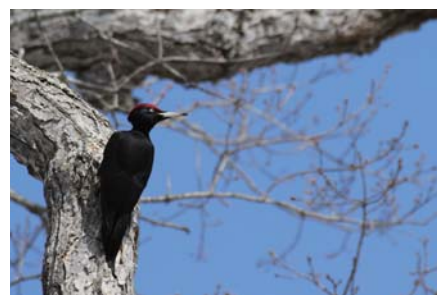
野幌森林公園のクマガラを守ろう!
野幌森林公園を守る会



野幌森林公園を守る会は、1983年、野幌森林公園内において北海道営林局（現北海道森林管理局）が行う天然林伐採等による生態系の破壊を憂慮する市民有志が集い誕生しました。いつまでもクマガラの棲める自然度の高い貴重な平地天然林を保護しながら森林利用を模索し、一人でも多くの市民に野幌森林公園が持つ自然のすばらしさを知ってもらうことを目的として、活動を行っています。

「クマガラの一斉調査」等、市民主体の活動を積極的に実施。

国の天然記念物であるクマガラが大都市近郊の野幌森林公園に生息することに着目し、毎年3月には「クマガラ一斉調査」を行うことを柱に、市民主体の活動を続けています。また、2016年には「クマガラ・フォーラム」を開催するなど、蓄積してきた知見を社会に還元することにも力を注いでいます。2018年は設立35周年を迎えるため、写真展とミニ記念講演会、クマガラの生息状況をまとめた報告書（記念誌）作成などを企画しています。これらを通じて次世代に成果を受け継いでもらうための確固たる土台を作り、クマガラ保護を中心とした生物多様性保全活動のより一層の充実を目指します。なお、2019年の「クマガラ一斉調査」は3月10日（日）に行われます。



クマガラ雄※



クマガラ・フォーラム



クマガラ調査風景

スタッフからの一言

野幌森林公園を守る会
事務局長 富川 徹さん

自然や野鳥から教えられることは実に多いといえます。特にクマガラ雄における繁殖期の巣づくりや子育て行動は、まさに長時間長期間に及び極度の労働なのです。彼らを見ていると恥ずかしながら私なんぞ足元に及ばずの脱帽そのものです。クマガラは尊敬に値する生き物であり、これからも本種のことをもっと知りたいと思っています。皆さんも一緒に森林を歩きませんか。



会員の声

クマガラ一斉調査
アンケート結果より



クマガラ雌※



クマガラ一斉調査に参加された皆さん



クマガラ食痕

初参加でしたが、子供と自然散策もかねて貴重な体験をすることができました。いつか本物のクマガラに出会えればよいなと思っています。
(札幌市在住)

真新しい食痕を見つけ感動しました。この前後でも数度姿を見ており、確実に増えていると感じました。
(江別市在住)

クマガラが増えているのは嬉しい限りですが、大きなカメラを持った人たちが生息を脅かさないことを願っています。
(札幌市在住)

※早坂泰夫氏 撮影

ほくー基金
応援2

人とツルが共存する豊かな社会を実現しよう!
NPO法人タンチョウ保護研究グループ



タンチョウ保護研究グループは、科学的な研究とそれに基づいた提言と保護対策により、人とツルが共存する豊かな社会の実現に寄与することを目的として、タンチョウその他ツル類の生態及び生息環境調査・研究、教育普及、提言及び情報発信、各地の保護研究団体とのネットワーク推進、タンチョウ保護に関わる機関・施設との連携等の活動を行なっています。

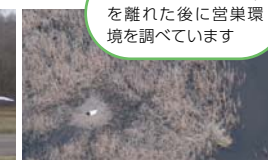
北海道における人間とタンチョウの共存例をつくるための活動を実施。

タンチョウの繁殖状況調査

セスナ機等を使った飛行調査などによって営巣地の分布や周辺環境の変化を調べ、湿原に入って巣立ち後の空巣の調査をします。



セスナ機を使用している調査 上空から確認できた湿原のタンチョウ



タンチョウのヒナが巣を離れた後に営巣環境を調べています



巣の地上調査

タンチョウの総カウント調査・標識調査

毎冬、タンチョウのカウント調査を行い、その調査結果は北海道における信頼できるタンチョウ生息数個体数として国際的にも採用されています。そのほか、タンチョウのヒナに足環を付けて、それを追跡確認する標識調査を行い、移動の様子や生残率などを調べています。



番号入りの足環



標識調査

1988年から2018年までの間に500羽以上のヒナに番号入りの足環を装着し追跡しています



1985年から、冬の給餌場集まるタンチョウをカウントしています



ねぐらのタンチョウ



カウント調査風景

タンチョウ保護に向けた国際協力

ロシア、中国、韓国のグループと協力して立ち上げた「国際タンチョウ・ネットワーク」の事務局を支え、共同調査や環境教育などのプロジェクトも行っています。



タンチョウ保護のための国際協力に向けたシンポジウム



タンチョウの共同調査

その他の活動

今後も人とタンチョウが共存していくために、開発された湿地をタンチョウの棲める環境に回復させ、地域主導によって環境保全を継続させることを目的とした「俵橋湿原ゆめプロジェクト」を進めています。

スタッフからの一言

NPO法人
タンチョウ保護研究グループ
理事長 百瀬 邦和さん



タンチョウが給餌という人間の手厚い保護下から脱して、北海道で安定して生存し続けていくためには道民全体に「北海道でタンチョウと共に暮らしていく」という意識をもっといただくことが大切です。今回は道央地域でそれに向けた活動をすすめていく予定です。

会員の声

タンチョウが選んだところ

当グループが行う冬の調査に参加してきました。ただ最近「寒い」などの理由で腰が重くなってきています。しかしそんな中、音別での調査のお誘いがあった際は参加しようという気持ちが湧きます。タンチョウのねぐらになっている冬の音別川、「自然が豊か」とはあまりに陳腐ですが、「豊か」とはこういう所をいうのでしょうか。そのような場所をタンチョウは自らねぐらに選び、そして私を魅了するところでもあります。



当行自身の環境負荷低減への取り組み

美しく豊かな北海道の自然。その財産を守り、次世代へ継承するのは我々の責務です。日々の業務の中、ほんの一枚、ほんの小さなことから少しずつ環境負荷低減の取り組みを積み重ねています。

ほんの一枚も大事な資源

古紙リサイクル



保管期間が経過した伝票や帳票類などは、厳重なセキュリティを装備した車輛で古紙リサイクル業者の工場に運ばれ、24時間監視システムを備えた施設で破砕処理されたあと、再生紙の原料としてリサイクルされています。

小さなことから変えています

電気使用量の削減



照明の間引き点灯、照明器具のLED化、空調のこまめな停止・温度調整、OA機器等未使用時電源オフの励行等に取り組んでいます。

全社をあげて取り組みます

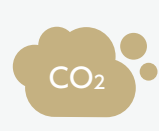
省エネルギー



店舗ロビーや営業室の照明器具のLED化、石油系燃料を使用した冷暖房機から電気またはガスを使用するインバーター制御のヒートポンプエアコンへの更新、高圧受変電設備の高効率機器への更新や節電対応等の施策で省エネを推進しています。

小さなことから変えています

CO₂ 排出量



省電力機器への更新や日々の地道な節電対応などを通じてCO₂ 排出量の削減を推進しています。

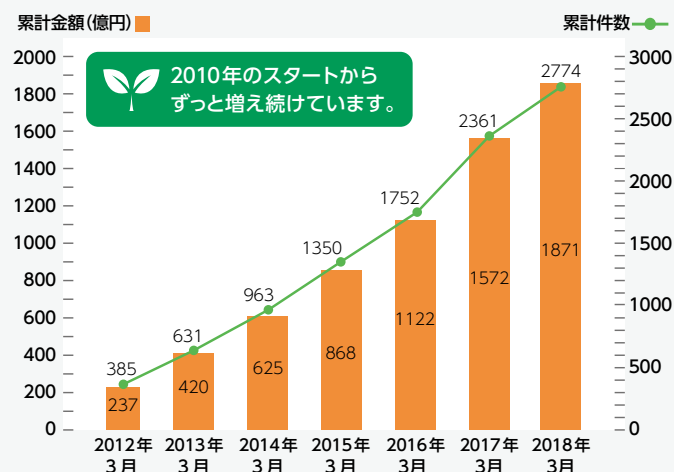
ビジネスを通じた取り組み

環境配慮型企業向け私募債

北洋エコボンド

環境に配慮した取り組みを自主的・積極的に行っている企業をサポートするため、一般的な私募債より金利優遇を行う私募債「北洋エコボンド」を発行し、多くの環境配慮型企業の皆さまにご利用いただいております。環境への取り組みは北海道、札幌市等の地方公共団体とも連携を強めていることから、主な対象企業を、北海道グリーンビズ認定制度・さっぽろエコメンバー登録制度の登録企業としています。

北洋エコボンド取扱状況(2012年3月～2018年3月)



担当からの一言



調査役 泉 雄貴

私募債とはお客さまが長期固定金利の資金調達を図るために発行し、それを限られた少数の投資家が引き受けるものです。従来の借入とは異なり、資本市場を通じた資金調達の第一歩となると共に、発行企業の財務内容健全性を対外的にPRできるメリットを有します。ソリューション部では、お取引店と共に一丸となって私募債発行が円滑に進むようお手伝いしていきます。

環境成長分野を対象とした融資ファンド

飛翔NEO(はばたきネオ)

北海道の成長産業である10分野に対して資金面でサポートを行うほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」では、資金使途の一つである「環境エネルギー分野」において、北海道の地域資源を活用した事業を積極的に支援しています。

環境ビジネス支援ファンド

環境関連に特化した「環境ビジネス支援ファンド」は、環境関連のビジネスを行うお取引先の株式を当行が引き受けることで、お取引先企業がより発展し信用力が高まり、地域経済の活性化につながることを目指すファンドです。

名称	ほくよう成長サポートファンド「飛翔NEO(はばたきネオ)」
ファンド総額	800億円
貸出金額	1貸出あたり500万円以上10億円以内
貸出期間	1年以上15年以内
返済方法	元金均等返済または元利均等返済
資金使途	以下の10成長分野に資する資金(運転資金・設備資金) ①医療介護事業 ②農林水産 ③環境エネルギー ④事業承継・M&A ⑤事業再編 ⑥社会インフラ ⑦観光産業 ⑧青函連携 ⑨協会けんぽ連携 ⑩働き方改革

(2018年6月末現在)

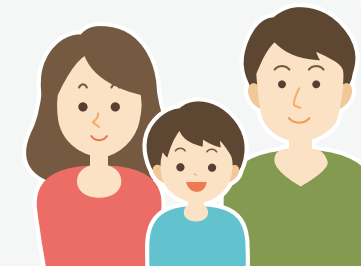
個人向けローンの拡充

リフォームローン エコリフォーム金利割引

省エネ改修工事、太陽光発電工事等環境配慮型工事の普及を後押しし、CO₂ 排出量削減に協力するため、これらの工事を行うお客さまのローン金利を通常のリフォームローン金利より優遇しています。

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)対応 住宅ローン

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギーハウス)対応住宅ローンでは、省エネルギー・高性能な住宅を幅広く普及させ、低炭素社会の実現や効率的なエネルギー利用に貢献するとともに、お客さまの住宅がより優良な資産となることを後押ししていきます。



医療福祉
への取り組み



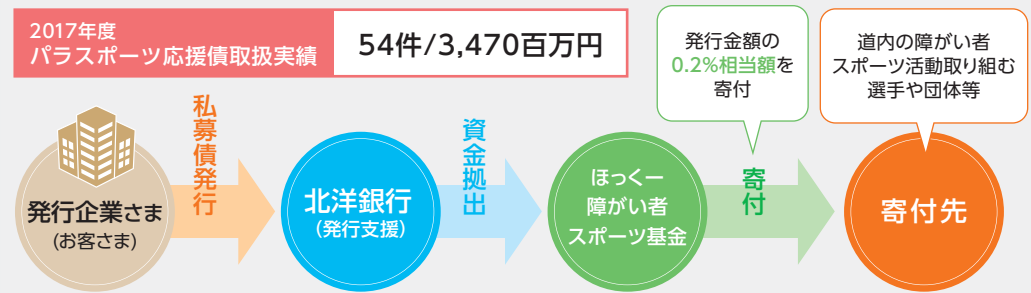
笑顔が広がる
ふれあいと助け合い。

地域の人々と手を取り合い、医のスペシャリストと手を携えて
これからの社会と一人ひとりにとって大切なテーマに取り組み。
元氣な笑顔の輪が大きく広がっていくように。

ほっくー障がい者スポーツ基金

北海道の障がい者スポーツを支援 パラスポーツ応援債

北海道の障がい者スポーツを応援する私募債「パラスポーツ応援債」をお取り扱いしています。これは、お客さまに私募債を発行いただくことにより、当行が「ほっくー障がい者スポーツ基金」より道内の障がい者スポーツに取り組む選手や団体等に寄付金を贈呈するものです。当行は、この取り組みを通し、地域のお客さまと共に障がい者スポーツを積極的に支援していきます。基金の贈呈、支援方法については、官民連携である「ほっくー障がい者スポーツ基金選定協議会」（北海道・札幌市・公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会・一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会・株式会社北海道新聞社・当行）を設置し、妥当性・公平性・透明性の確保に努めています。



2018年度贈呈先

- 山本 浩二 選手 (競泳)
- 羽立 祐人 選手 (マラソン)
- 戸田 雄也 選手 (パラ・パワーリフティング)
- 碓井 琴音 選手 (車いすバスケットボール)
- 山口 乃愛 選手 (パラサイクリング)
- 広井 拓 選手 (障がい者バドミントン)
- 北海道身障者スキー連盟
- 道北地区障害者スポーツ指導者協議会
- 北海道「ほっかいどう未来チャレンジ基金」
- 公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
- 一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会
- 2019ワールドパラノルディックスキーワールドカップ札幌大会
- 全日本障害者クロスカントリースキー競技大会

計13先に**694万円**の寄付を贈呈します



山本浩二選手



碓井琴音選手

寄付の贈呈を受けて

クロスカントリースキーとバイアスロンの選手
2017年度 贈呈先 星澤 克さん(北海道大学1年)

私は今まで競技をする上で、遠征費や用具費など金銭的な面で厳しいと感じることがありました。今回、基金で支援していただいたお金でワールドカップに出場したほか、強化合宿に参加するための遠征費、そして新しいスキー板やストックを購入するための用具費に充てることができました。それにより、より多くの遠征に参加することができ、以前よりも充実した用具で競技に望むことができるようになったと感じます。今後は、4年後の北京パラリンピックに向けて、更に練習に励みたいと思います。



©2017ワールドパラノルディックスキーワールドカップ札幌大会実行委員会

地域医療への貢献と道内教育機関との連携

道民の皆さまがより健康に元気に暮らせる心身づくり、地域医療への貢献、産学が手を組み互いに発展することを目的として、道内4つの教育機関と包括連携協定を締結しています。2017年度は、医療機関を対象とした「医療経営セミナー」を開催し、経営面でのサポートにも取り組みました。

市民向け医療セミナーの開催 北海道医療大学



市民医療セミナー

各教育機関との事業内容

大学名	事業内容
北海道大学	「医療健康講座」6回開催(2017年度)
札幌医科大学	「道民医療講座」(2017年度)
旭川医科大学	地域医療活性化の取り組みを紹介するラジオ番組放送(2011年4月~10月)
北海道医療大学	「市民医療セミナー」3回開催(2017年度)

ローン商品を通じて安心して治療に専念いただくことをサポート

先進医療ローン

悪性腫瘍に対する陽子線治療等、高額な治療費が必要となる先進医療を受けられる患者さまやそのご家族の方を対象にした商品です。医療費も対象にした通常のローンよりお借入条件を有利に設定し、元金のお支払いも6ヶ月間据置できるため、経済面での不安を緩和し、治療に専念していただけます。(2015年1月取扱開始)



先進医療ローンリーフレット

住宅ローン「11疾病団信(生活習慣病団信入院プラスα)」

住宅ローン団信のラインナップに「11疾病団信」を追加しました。通常の団信の保障(死亡・高度障害)、余命6ヶ月以内と判断されたときの保障に加え、がん診断確定された場合や10種類の生活習慣病で入院が180日以上継続した場合に住宅ローン残高が0円になるだけでなく、がんに関する充実した給付金と短期・中長期の入院にも幅広く対応しています。(2018年5月取扱開始)

万が一のときも安心な教育ローン

ローンのご返済中に、生まれて初めて「がん」と医師により診断された場合、保険金が返済に充当される「がん診断保険金特約」をセットした教育ローンをご提供しております。もしも「がん」と診断されたら教育ローンの残高が0円となり返済負担がなくなるため、教育をあきらめることなく治療に専念いただくことができ、お子さまの夢を応援できる安心感を教育ローンにセットしました。(2016年1月取扱開始)

がん検診率向上への支援

北海道とがん対策推進に関する連携協定を結び、がんの正しい知識を普及させる啓発活動や、がん検診の受診を促進する取り組みに協力しています。ポスター・リーフレット等の店舗設置や店頭でのパネル展実施、啓発イベントへの協賛・宣伝、PR品提供等を行っています。2016年には、独立行政法人国立病院機構北海道がんセンターと「がん対策の推進に関する連携協定」を締結しました。

古本回収による募金活動で地域医療に貢献

古本回収による募金活動を全役職員で行い、日本赤十字社が道内で行う救急法講習会で使用する「訓練用AED(自動体外式除細動器)パッド」等の資材購入を支援しました。2017年度は全営業店から1,605点の古本などが持ち寄られ、多くの職員がこの活動に参加しました。



企業団体献血への協力

職員参加型のCSR活動として、企業団体献血への協力を「医療福祉」支援の一環と位置づけて、推進しています。2017年度は、道内各地区で日本赤十字社より献血バスを手配いただき、延べ312名の役職員が参加しました。輸血を必要としている尊い命を救うために、持続的に取り組むことのできる身近なボランティア活動として、今後も定期的に取り組んでいきます。



献血バス



北洋大通センターでの団体献血

骨髄バンク活動への支援

「北海道骨髄バンク推進協会」は、尊い命を救うためにドナー登録者の拡大と、骨髄移植の推進と活動を行っています。当行は、1990年の協会設立以来、事務局の運営および啓発活動への協力のほか、経済的支援等様々な支援をしています。また、骨髄ドナー休暇を設けて職員の貢献活動も推進しています。



骨髄バンクドナー登録会

「健康チェック相談所 (e-ヘルスステーション)」の設置

当行の野幌中央支店では、市民の健康づくりのお役に立てるよう、江別市と北海道情報大学が連携して実施している予防医療設備「e-ヘルスステーション」を店内に設置しています。これは、ご来店されたお客さまが血圧計や体組成計を自由にお使いいただけるもので、お手続きの待ち時間などに有効にご活用いただいています。



野幌中央支店内に設置した「e-ヘルスステーション」

移植医療への協力

移植医療についての啓蒙活動のひとつとして、公益財団法人北海道移植医療推進財団のご協力のもと、全店舗に「臓器提供意思表示カード」を設置しています。人の命に直結する移植医療は重要な課題です。多くの方が臓器移植の必要性を認識し、理解を深めることが推進への近道だと考えています。



臓器提供意思表示カードの設置

さまざまな調達方法の提供による資金支援

● 診療報酬債権流動化

医療機関がもつ診療報酬債権の買い取りを行うことで、一般の融資とは異なる手法で医療機関の資金支援をお手伝いしています。従来型の融資に躊躇していた医療法人にもご利用いただける方法で、多くの医療機関にご利用いただいています。

契約法人数	17先
うち、地域医療機関契約数	14先
※札幌市内の医療機関を除く	
(2018年3月時点)	

● 医療福祉債

法的に債券を発行できない医療機関等に対して、債券発行のメリットを提供し、かつ医療機関の健全運営をPRできる商品として「北洋医療福祉債」をお取り扱いしています。2018年3月末時点で56先の医療法人・社会福祉法人の皆さま(累計)にご利用いただいています。

教育文化
への取り組み



豊かな心と、
輝く瞳をはぐくむ。

子どもたちが心豊かに、瞳を輝かせて育つまへ。
暮らしに潤いと感動、笑顔が広がるふれあいを。
そんな想いを叶えるための様々な取り組みに努めています。

主催/毎日新聞社 協賛/北洋銀行

第45回 中学生作文コンクール



北洋大通センターでの表彰式

北海道の未来を担う中学生の育成を目的として、2013年度から中学生作文コンクールに協賛しています。今回のテーマは「あこがれ」で、全道から2万点を超える応募がありました。表彰式は当行本支店を主会場として、道内の5地区で開催しました。

「あこがれ」 テーマは	文部科学大臣賞	國見 亮太さん(旭川・東明中1年)
	北海道知事賞	桃野 望さん(室蘭・星蘭中3年)
	北海道中学校長会会長賞	池田 咲亜さん(札幌日本大学中2年)
	北海道学校図書館協会会長賞	八丁 真央さん(札幌・屯田中央中3年)
	特選 毎日新聞社賞	山口 文哉さん(北海道教育大学附属函館中1年)
	特選 北洋銀行賞	武藤 泉さん(標茶・標茶中2年)

特選入賞者
からの
一言



國見 亮太さん
(旭川市立東明中1年)

僕は今回のテーマが「あこがれ」と聞いて、僕の将来の夢のことがまっさきに浮かびました。そして、その夢の出発点でもあり、僕の原動力とも言える弟への思いと、尊敬できる院長先生との出会いを書いたこの作文で、このような素晴らしい賞をいただいて、とても嬉しく思っています。この賞をもらって、よりいっそう僕の夢への思いが強くなりました。これからも、日々の生活を大切に、充実させて、夢に向かってがんばっていきます。ありがとうございました。

入賞作品集

「あこがれ」



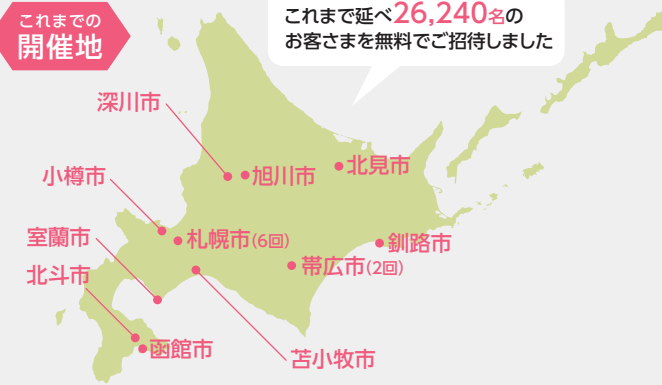
表彰式終了後、入賞作品や表彰式風景をとりまとめた作品集を発行しています。

北洋銀行 presents

札幌交響楽団によるクラシックコンサート

2017年度は道内6都市で開催

北海道の文化がますます盛んになるよう、2012年から札幌交響楽団によるクラシックコンサートを開催しています。2017年度は、創立100周年記念公演として全6公演を開催し、たくさんのお客さまに名曲の数々をお楽しみいただきました。地域社会への貢献の1つとして、本格的なクラシック音楽を身近に感じていただき、少しでも地域の芸術文化振興のお役に立てよう積極的に取り組んでいます。



苫小牧公演 (2017年 苫小牧市民会館)

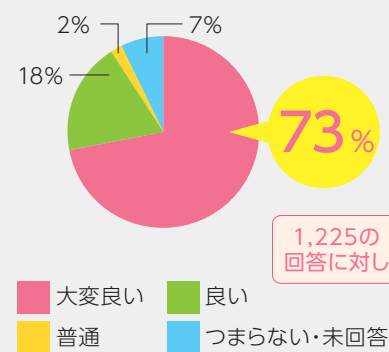


札幌公演 (2017年 札幌コンサートホール Kitara)

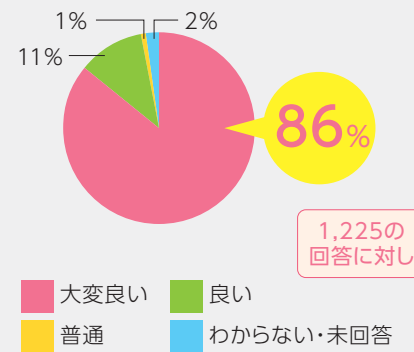
お客さまの声

2017年12月11日開催 創立100周年記念クラシックコンサート 札幌コンサートホールKitaraフリーコメントより様々な声が寄せられ、来場者の9割の方から「大変良い」「良い」とのお答えをいただきました。

コンサートはいかがでしたか？



北洋銀行がこの様なクラシックコンサートを開催することについてどう思われますか？



北洋銀行が道内の芸術文化を高めることは大変良い事業で益々頑張ってください。
(男性70歳以上 自営業)

迫力のあるすてきな演奏ありがとうございました。私は中学校で吹奏楽部に所属しているので勉強になる点がありました。
(女性19歳以下 学生)

国際教育音楽祭「PMF」

世界の若手音楽家の育成を目的に、1990年より毎年開催されているPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)に協賛しています。夏の音楽祭の期間中には、お取引先のお客さまをご招待するミニコンサートを当行本店セミナーホールにて開催し、アカデミー生が奏でる音色をお楽しみいただいています。



北洋大通センターでのミニコンサート

スポーツ応援事業

北海道との包括連携協定の一環として、「子ども」並びに「障がい児者」に重点を置いたスポーツ応援事業を実施しています。道内のスポーツの発展と地域におけるスポーツの推進を目的としており、子どものスポーツでは体力向上と地域活性化、障がい児者スポーツでは、障がいに対する理解深耕と障がい児者の社会参加の促進に寄与したいと考えています。

●子どものスポーツ

公益財団法人北海道体育協会のご協力のもと、スポーツ教室を開催します。地元のスポーツ少年団やスポーツクラブとも連携し、5種目10回以上のスポーツを体験できるものとします。当協会を通じ、各市町村体育協会へ助成させていただきます。

Pick up!

美唄市スポーツチャレンジクラブ (道体協チャレンジクラブ地域版)

2017年度チャレンジクラブ地域版実施市町村のひとつである美唄市では、7月から10月までに計11回のスポーツ教室を開催し、参加した小学生たちが様々なスポーツを体験しました。

実施種目

- 体力テスト
- 陸上
- バスケットボール
- バドミントン
- ソフトテニス
- バレーボール
- など



スポーツを体験する子どもたち

主催：公益財団法人北海道体育協会 NPO法人美唄市体育協会 協力：NPO法人美唄市体育協会加盟競技団体

●障がい児者スポーツ

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会のご協力のもと、障がい児者スポーツの活動団体から公募を募り、障がい児者スポーツの振興と向上に資する大会・教室等の活動のなかより選定し、助成金を交付させていただきます。



障がい児者スポーツ団体助成決定通知書授与式

劇団四季による子どもたちへの取り組みを支援

日本最大の演劇集団・劇団四季が実施する北海道四季劇場での児童芸術鑑賞教室を支援するほか、道内各地で開催されている無料招待公演「こころの劇場」のサポーターとして、子どもたちの心に「命の大切さ」「人を思いやる心」などを、舞台を通じて語り掛ける活動を応援しています。



劇団四季「こころの劇場」

奨学金支援

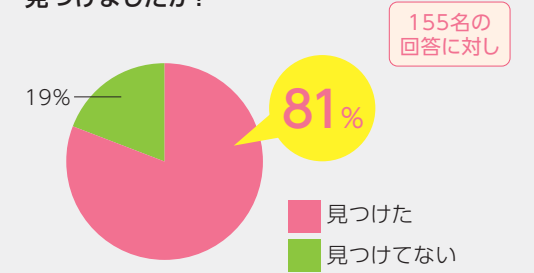
社会福祉法人北海道母子寡婦福祉連合会ならびに公益社団法人札幌市母子寡婦福祉連合会が行っている奨学金事業について、それぞれ1976年および1985年より応援をしています。



札幌市母子寡婦福祉連合会奨学金贈呈式

チャレンジクラブ(地域版)に参加した子どもたちへのアンケート

チャレンジクラブで好きなスポーツは見つきましたか？



保護者の声

個人的に大会に参加するくらい競技が好きになっていた

体験した種目のスポーツ少年団に入り、時間の使い方を考えるようになった

経営
について

働きやすく、信頼される
組織を目指して。

職員が能力や個性を十分に発揮し、それぞれの暮らしを充実できるように様々なサポートを行っています。将来のキャリアはもろろん、ライフプランをしっかりと描ける働きやすい職場、働きがいのある企業を目指して。

女性職員の一層の活躍を支援

職員全体の約4割を占める女性職員のキャリア・アップやライフ・プランについての相談や、育児休業中の職員の職場復帰の支援等を行う「女性活躍支援室」を人事部内に設置しています。また、「子育て」や「介護」についての相談・アドバイスを全店の職員で情報交換できるコミュニティの場を提供する等、職場も協力できる組織、風土づくりを目指しています。

育児休業取得率100%

出産・子育てをしながら働き続けるための様々な制度やサポートがあり、パートタイマーを含めた女性の「育児休業」を取得しやすい環境と なっています。

女性経営職登用の促進

女性職員を対象としたキャリア・アップ支援の取り組みの一つとして、様々な研修を行っています。



育児休業者意見交換会

女性職員活躍支援への
取り組みが評価されています!

「えるぼし」の認定

2016年4月、道内企業で初めて「女性活躍推進法」に基づく認定マーク（通称：えるぼし）の最高評価である「3段階目」を取得し、厚生労働大臣の認定を受けています。



内閣府「女性が輝く先進企業表彰」受賞

2016年12月、内閣府による「女性が輝く先進企業表彰」において、「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。



「女性が輝く先進企業表彰」表彰式

育児休業取得者からの



調査役 角田 恵

産休に入る前から、仕事や手続き等の面で職場や女性活躍支援室の方々にサポートしていただき、スムーズに産休・育休を取得することができました。また、休業中に勉強会や意見交換会に参加することで、職場復帰後の生活をイメージでき、準備を進めることができました。企業内託児所に子どもを預け、安心して仕事に集中できる環境にとっても感謝しています。これから、ますます働くママが活躍する企業になることを願っています。

人材育成の取り組み

経営理念である「北海道の洋々たる発展の礎となる銀行」の職員として、「北海道の発展に貢献する人材」の育成に取り組んでいます。「キャリア開発・能力開発」のための各種研修を実施しているほか、「能力開発チャレンジ制度」により各種資格試験や検定試験へのチャレンジ、自己啓発の取り組みを支援しています。そして、職員に期待される役割を遂行するために実践した行動や、行動の実践により創出された成果等を公正公平に評価する人事考課制度を設けています。



社内研修

ワークライフバランスへの取り組み

仕事と生活の調和

働きがいのある職場づくりのためにワークライフバランスの実現に取り組み、仕事と家庭の両立を積極的に支援する制度を導入しています。コース転換制度、勤務地変更制度、育児・介護リキャリアプラン、半日有給休暇制度などワークライフバランス関連制度を充実させたほか、1週間の連続休暇や勤続年数に応じたリフレッシュ休暇による有給休暇の取得推進、毎週水曜日の定時退行日や年2回の定時退行励行週間を実施しています。

企業内託児所	2006年4月開設、職員・パートタイマーが利用	介護休業	要介護状態にある家族の介護を行っている職員
育児休業	子が2歳に達するまで	育児・介護リキャリアプラン	育児・介護の負担に応じ、一時的に役職を下げた業務を軽減
育児休暇制度	配偶者の産後8週間以内に10日間取得可能	コース別人事	ライフイベントに応じて勤務地を限定できるコースを設置
育児短時間勤務制度	小学校6年生までの子を養育する職員、6時間勤務と7時間勤務の選択制	コース転換制度	ライフイベントに応じてコースの往來が可能
時間外労働の免除	小学校6年生までの子を養育する職員	勤務地変更制度	配偶者の転勤・親の介護先への希望異動が可能
半日有給休暇制度	有給休暇を半日単位で取得できる	退職行員再雇用制度	子育て等が落ち着いた元行員を再雇用する制度

障がい者雇用への取り組み

障がいのある方が地域の中で安心して暮らせる社会の実現と、障がいのある方の社会的自立を支援するために障がい者雇用に取り組んでいます。

メンタルヘルスケア

複雑化する現代社会において、こころに悩みを抱える人が増えていることを受け、2002年に専門カウンセラーとの1対1の電話・メール・面接によるカウンセリングを利用できる「メンタルヘルス・ケア制度」を設け、職員と家族の「こころの健康」を保つお手伝いをしています。また、管理監督者のラインケアの実現に向けて、役付者を対象とした「職場のメンタルヘルスセミナー」等を実施しています。

ライフスタイルに合わせた高齢者の再雇用

当行では「高齢者雇用安定法」の改正を受け、シニア職員再雇用制度により希望者全員が満65歳まで引き続き勤務をしています。現在300名以上が本制度を活用し、各専門分野で活躍しています。再雇用にあたっては、勤務日数・勤務時間等多様なメニューを用意しており、各自がライフスタイルに応じた働き方を選択しています。

職員の健康管理の取り組み

当行は、2018年2月に経済産業省および日本健康会議が実施する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2018（大規模法人部門）」に認定されました。

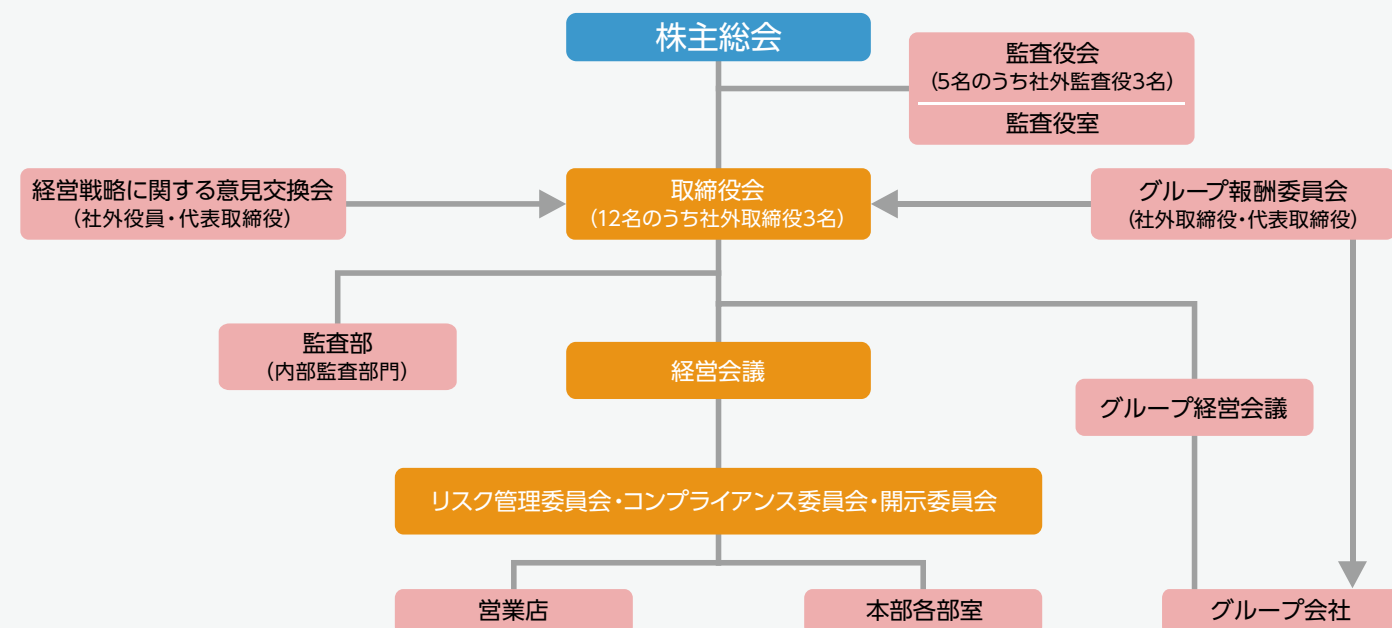
職員の健康で働きがいのある職場づくりを経営の重要な柱と位置づけ、長時間労働の是正に向けた各種取組や有給休暇取得促進、2017年4月からは店舗を含む当行施設の全面禁煙化など、職員に対して様々な健康施策を行っています。



コーポレートガバナンス体制

当行は、経営体制として監査役会設置会社を選択しており、その枠組みの中で、社外取締役を3名（うち女性2名）選任し、社外取締役全員と代表取締役全員で構成する任意のグループ報酬委員会を設置するなど、より効果的なガバナンス体制の確立に努めています。

コーポレートガバナンス体制図



危機管理体制と業務継続計画に関して

地域金融機関としては、万が一、災害等不測の事態が発生した場合でも、その影響を最小限に留め、業務を継続し、もしくは早期に業務を再開する責務があります。

当グループでは、「危機管理規程」等を定め、体制整備に努めると共に、「業務継続計画」として「新型インフルエンザの発生」及び札幌市直下型の「大地震災害の発生」を想定し、「緊急時対応要領」等のマニュアルを作成した上で、定期的に訓練を実施しています。

リスク管理

金融の自由化等の進展で、金融機関を取り巻くリスクも一段と多様化・高度化しています。当行では、これらのリスクを適正に管理・コントロールすることで、お客さまに安心してお取引いただき、また、選ばれる金融機関となるため、リスク管理体制の強化・充実に取り組んでいます。

リスク管理体制

リスクを「信用リスク」、「市場リスク」、「流動性リスク」、「オペレーショナル・リスク」に分け、リスクの特性に応じて把握・評価し、管理しています。毎月開催される「リスク管理委員会」では、これらの主要なリスクの状況を把握し、リスクの管理方針や管理体制の整備について協議しています。また、銀行全体のリスクを統合的に管理するために「統合的リスク管理方針」、「統合的リスク管理規程」を定め、定性面・定量面から適切に対応し、リスク全体を経営体力の範囲内に制御することで自己管理型のリスク管理を行っています。

コンプライアンスとお客さま保護等の態勢

当行は、コンプライアンスとお客さまの保護を経営の最重要課題の1つとして位置付け、法令や社内規則等に従い、倫理感の高い組織運営と企業風土の醸成を企業活動の大前提としています。

コンプライアンス態勢

コンプライアンス態勢と行動規範の基本方針等を定め、態勢確立のため、法務コンプライアンス部を事務局としたコンプライアンス委員会を設けています。委員会では遵守すべき法令等の解説や違法行為を発見した場合の対処方法等を具体的に示したコンプライアンス・マニュアルを作成し、全役職員等に配布しています。また、態勢強化のためのコンプライアンス・プログラムを定め、随時見直しを行っています。本部各部署、各営業店にも責任者・担当者を配置し、コンプライアンスについての状況把握をすると共に、方針の徹底・浸透を進めています。また、不正行為やコンプライアンス上の問題をいち早く把握し、正すために内部通報制度を設けています。

反社会的勢力への対応

反社会的勢力への対応に係る基本方針を定め、当行グループ一体となって、反社会的勢力との関係を遮断する態勢を整備しています。具体的には、反社会的勢力との取引の未然防止に努めるとともに、各種取引に「暴力団排除条項」を導入し、取引開始後に相手方が反社会的勢力であることが判明した場合には、警察や弁護士等と連携し、適切に対応しています。

個人情報保護・お客さま保護等

個人情報の適切な保護と利用に関し、その取組方針を「個人情報保護宣言（プライバシーポリシー）」として定め、公表しています。また、情報資産を適切に保護するための「セキュリティポリシー兼セキュリティスタンダード」を定め、適時適切に遵守状況のチェックを行っています。

また、お客さまの保護や利便性の向上を目的とした「お客さま保護等管理方針」や、お客さまに適切な金融商品を提供するための「勧誘方針」等を定め、お客さまのニーズに応じた適切な商品の提案に努めています。お客さまの利益が不当に害せられることを防ぐための「利益相反管理ポリシー」と「利益相反管理規程」を定め、利益相反に該当する取引を適切に管理する態勢を整備しています。

安定的な資産形成・資産承継を実現するための取組方針

～「お客さま第一主義」(フィデューシャリー・デューティ)の徹底～

フィデューシャリー・デューティ^(注)の実践に向けた取組方針を定め、公表しています。本取組方針に基づき、今後もお客さまのライフステージ等に応じたコンサルティングを通じて、最適な商品やサービス・情報をタイムリーにご提供していきます。

(注)フィデューシャリー・デューティとは、お客さまのニーズを正確に捉え、適切な説明や情報提供を実施し、お客さまの意向や利益に真に適う金融商品やサービスを提供することをいいます。

6つの取組方針

- 取組方針1 ⇨ お客さま第一に徹したコンサルティングの実践
- 取組方針2 ⇨ お客さまの利益を第一とした管理体制の強化
- 取組方針3 ⇨ 手数料の分かりやすい説明
- 取組方針4 ⇨ 重要な情報の分かりやすい提供
- 取組方針5 ⇨ お客さまに寄りそったサービスの提供
- 取組方針6 ⇨ お客さま第一を実践するための体制構築



積極的なIR活動を通じた株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築

株主・投資家の皆さまと長く揺るぎない信頼関係を築くため、適時・適切な情報開示に加え会社説明会の積極的な開催等コミュニケーションの機会をより拡充することで、当行への理解を深めていただき、常に適切な評価を獲得できるようIR活動の強化に努めています。

札幌北洋グループのディスクロージャーポリシー（情報開示に関する基本的な考え方）

- 1 当行は、金融商品取引法、会社法、銀行法及び金融商品取引所の規則その他の関係法令等を遵守し、適時適切に情報の開示を行います。
- 2 当行は、お客さま・株主・投資家等が当行の実態を正確に認識し判断できるよう、財務内容、経営方針、事業戦略等に関して真実かつ正確な情報開示を行い、積極的なディスクロージャー活動に努めます。
- 3 当行は、開示した会社情報については開示後速やかに、また、アナリスト・機関投資家向けのインフォメーション・ミーティング資料についても原則同日中に当行ホームページに掲載する等、公平な情報開示に努めます。
- 4 当行は、会社情報の開示にあたって金融商品取引所の定める方法のほか、インターネット、各種印刷物等の様々な方法を活用し、より広くわかりやすい開示に努めます。
- 5 当行は、情報開示を適切に行うための体制の整備・充実に努めます。

機関投資家向け説明会

例年6月と12月に機関投資家向け説明会を開催しています。説明会では、頭取より、直近の決算内容や経営戦略、配当方針等を説明した後、投資家の皆さまからのご質問を受け付けているほか、説明会で使用した資料はホームページで公表しています。また、機関投資家の皆さまのご要望に応じて、小規模説明会や個別ミーティングも随時開催しています。

主なIR活動

IR活動	2017年度	
	回数	場所
株主総会	1	札幌
機関投資家向け説明会（インフォメーションミーティング）	2	東京
機関投資家向け個別ミーティング	18	札幌、東京
個人投資家向け会社説明会	4	札幌、旭川、帯広、函館

個人投資家向け会社説明会

2017年6月に札幌、同年9月に旭川、帯広、函館の各都市で個人投資家向け会社説明会を開催し、合計で350名の皆さまにご来場いただきました。説明会では、頭取より、北洋銀行の地域金融機関としての位置づけや今後の事業展開、CSRへの取り組み状況等について説明したほか、皆さまからのご質問を受け付け、双方向のコミュニケーションを図っています。今後も説明会等の機会を通じて、個人投資家の皆さまに積極的に情報を発信していきます。



個人投資家向け会社説明会

IRツール

株主、投資家の皆さまに、より充実した情報をご提供していくため、IRツールの拡充に努めています。

主なIRツール

ディスクロージャー誌

ミニディスクロージャー誌

アニュアルレポート

機関投資家向け説明会資料
(インフォメーションミーティング資料)

個人投資家向け会社説明会資料

CSRレポート ダイジェスト版

CSR REPORT 2018 に対する第三者意見

2017年に創立100周年を迎えた北洋銀行は、2018年、新たな世紀の元年を迎えています。この大きな折り返しの年を、「新たな創業の年」と位置づけ、今後の100年を見据えた経営を行ってきたいという頭取の熱い冒頭メッセージには心揺さぶられ、期待感が高まります。北海道経済を取り巻

くネガティブな外部環境打破の鍵は、この熱い思いの中にあると思われるからです。新たな経営の取り組みと共に展開する札幌北洋グループのCSR活動に関し、本レポートを読み解きながら、その全体像や特徴をまとめ、分かりやすく評価を行ってみたいと思います。

● ほっくーの成長と持続的発展

札幌北洋グループのCSR活動の特徴を一言で述べれば、「信頼感」というキーワードになるでしょうか。創業以来、地域金融の要として築き上げてきた地元の人々との関係は、現代的には「全てのステークホルダーの持続的発展に資する行動を全行で実践する」という基本方針に置き換わってはいますが、今も昔も、関係構築の目標が信頼感と安心感であることは変わっていません。グループ全体として有している「環境保全」「医療福祉」「教育文化」という三大重点領域のCSR活動が、ステークホルダーに、効果的に、関係構築をもたらした成果であると思われる。この信頼感と安心感を作り出した三大領域活動は、道内屈指のCSR活動であると賞賛しても間違いありません。

この三大領域のカテゴリーを凌駕し、注目に値するのは、

紛れもなく「ほっくー」の活躍だと思われる。そもそも希少動植物保護に取り組む人々や団体を支援する基金として誕生した「ほっくー基金」は、その原資の捻出方法が「価値共創」により行われ、CSR本来の考え方とも整合性を持つことにより、多くの道民の賛同を得た実績を有しています。この「ほっくー基金」は、公募制の導入等により、より「価値共創」を増してリニューアル進化を遂げました。また「環境保全」領域から出発しながらも、三大領域を横断し、「ほっくー障がい者スポーツ基金」としても活動し始めました。これらの基金活動の他に、本CSRレポートの紹介役も勤めてきています。基金活動からコミュニケーション活動にいたるまで、ほっくーの活動からは目が離せません。札幌北洋グループの持続的発展キャラクターとして認知される日も遠くないでしょう。

● SDGs のその先に

SDGsは、国連サミットで採択された、持続的社會を目標とする社会・経済・環境等の17課題の国際目標です。2016年から2030年が射程となっているため、意識の高いCSR企業の目標として使われることが多くなってきました。札幌北洋グループにおいても本年度より取り組みが本格化し、領域が「起業・創業」に絞られ、「北洋SDGs推進ファンド」として開始したことが本レポートでも紹介されています。「起業・創業」の支援は札幌北洋グループにおいて最も本業に近く、経験や知識が集約している部分であり、北海道経済と道民の持続的な発展に大きな貢献をもたらすことが期待されているところでは、

このSDGsに関しては、17という課題領域の多さがしばしば話題となります。意識の高い企業にとって重要なのは、17領域の選択と集中であることは間違いありません。札幌北洋グループは、この選択と集中を見事に、「起業・創

業」を見出しました。ところでこの17領域は、事業領域の創出の他に、事業評価という利用方法もあります。札幌北洋グループのCSR活動の特徴は、持続的地域社會を目標とした実に多彩な活動の集積にあります。本レポートの「特集03 地域とまちと共に」に掲載されている地域活動は、実に7頁に及んでいます。これらの活動を17領域に分析整理してみれば、札幌北洋グループらしい信頼感や安心感の秘密が見えてくるかもしれません。自分たちの活動を分析対象に、SDGsの17領域が使える企業は、道内でも一部の企業に限られます。札幌北洋グループのCSR活動の多様性は、SDGsによってこそ生かされるかも知れません。次年度以降、是非とも試みて頂きたい整理方法の一つです。

札幌北洋グループのCSR活動が契機となり、SDGsのその先に輝く北海道の未来を見てみたい。そんな日が来るのを待ち望んでいるのは私一人ではないはずです。



北海道大学
メディア・コミュニケーション研究院
国際広報論分野・教授
伊藤 直哉

筆者略歴

カトリック・ルーヴァン大学（ベルギー）大学院博士課程修了。同大学高等哲学社会研究所研究員、北海道大学言語文化助教授、北海道大学大学院国際広報メディア研究科助教授を経て、2009年より現職。主な研究領域は国際広報マーケティング論、観光情報学等。社会連携として、北海道CSR研究会の活動を積極的に展開し、企業との連携実績が豊富にある。